第1回亀岡中学校ブロック協議会 議事録要旨

■日時

平成30年7月19日（木）午後7:00～午後8:45

■会場

亀岡市役所 1階 市民ホール

■議事

- 1 開会
- 2 亀岡市学校規模適正化について
 - ・ 亀岡市教育振興基本計画
 - ・ 亀岡市学校規模適正化基本方針
- 3 亀岡中学校ブロックについて
 - ・ 亀岡中学校ブロックの児童・生徒数の予測
 - ・ 亀岡地区東部地域の学校区について
 - ・ 亀岡駅北土地区画整理事業地区の学校区について
 - ・ 特認校制度について
- 4 意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

■意見交換発言内容

座長 (教育総務課長)	今、事務局から次第の「2 亀岡市学校規模適正化について」と次第の「3 亀岡中学校ブロックについて」の亀岡中学校ブロックの児童・生徒数の予測について、平成35年度までの推移の説明、次に亀岡地区東部地域の学校区について、これまでの経過も含めた説明、続いて亀岡駅北土地区画整理事業の地区計画についての説明、最後に去る6月市議会においてご質問のあった「小規模特認校制度」について、保津小学校への導入のあり方の説明があった。これらを踏まえて、次第の「4 意見交換」に移りたい。
委員	保津町自治会としては、保津小学校で特認校をぜひお願いしたい。今年度4月から移住促進特別区域となり、5年先、10年先を見据えたまちづくりをしていかなければならない。その中で、小学校や保育所はまちづくりの基本で、小

	<p>学校や保育所が統合されることになるとまちづくりを根本から見直す必要がでてくる。5年先、10年先を見込んでも、すぐに住宅が建って子どもの数が増えることは難しい。そのため、特認校にすることで、外から入ってくる児童があるかもしれない。</p>
<p>座長 (教育総務課長)</p>	<p>保津小学校を小規模特認校制度の適用を受けて、児童数の維持や増加をさせるように対応してほしいとのこと。</p>
<p>委員</p>	<p>亀岡駅北土地地区画整理事業地区の計画戸数は300戸から650戸とのことだが、児童数でどれくらい増えるのかがわからないし、城西小と亀岡小でどれくらいの規模が予想されているのかがわからない。どれだけ見込んでいるのか数字で分かる資料を出していただきたい。それと保津小校区については、保津地域は川を渡るので、安全面を考えて亀岡小や城西小にするのは望ましい。保津小学校の特認校制度については、問題はない。亀岡地区東部地域の学校区について、亀岡地区中部自治会には説明もなかったが、いかがなものか。住民の意見を無視しているのではないか。上矢田地域などは、祭りの関係からも亀岡小に通ったほうがいいという意見もあり、十分に納得いくように進めてほしい。保護者の方が反対されているのは、きょうだいで学区が違うことが一番の問題で、ある程度の計画を立てて、順次実施していくような計画でないと進まない。</p>
<p>座長</p>	<p>駅北地域の児童数の増加見込みはどのくらいであるか、亀岡地区中部自治会に対する説明がなかったこと、地域の方々にもご意見があること、保津町の特認校については、ご理解いただけているという御意見であった。駅北地域の児童数については、明確にお示しできる資料はできていない。今日は、学校規模適正化基本方針について、亀岡中学校ブロックについての共通認識をいただいた上で、今後データをお示しする中で協議が進めていければと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>保津小学校の特認校については、反対ではないし必要である。ただ、もう少し前段の話をしないといけない。45年ほど前、亀岡小学校の一部がつつじヶ丘小学校へ移った際、相当もめた。財産区の財産を分けてまで移るところまでもめた。そこには行政のエゴがあったのではないか。この問題は、しっかりと取り組まないと後々禍根を残すことになる。何年度からという決め方をすると揉めてしまう。その中に自治会の意見を優先してしまうともっと揉める。主人公は、子どもである。暫定的にどっちかを選択できるような流動的なものにししないと自治会やPTAで相当揉めることになるのではないか。駅北のゾーンについても、大阪ガスの供給戸数であるが、商業ゾーンはスタジアムが大きく占めており、実際は数字がつかめていない。距離で言えば保津小学校へ通うのは難しい。ただ、通いたい児童は通えるようにすべきである。距離的には、全て城西小学校となっても不思議ではない。前段の説明をもう少し丁寧にして</p>

	<p>ほしい。意見は言えても断定的に答えることはできない。</p>
座長	<p>なぜ、この会議を行うのかを丁寧に説明できていなかったこと、またこの会議での説明も十分ではないこと、40数年前の亀岡小学校からつつじヶ丘小学校へ校区を変えた際の経過を共通認識したうえで進めていくべきだということ、それらを含めてもう少し丁寧に慎重に進めていくべきであるという意見をいただいた。今日この場で決定するのではなく、亀岡中学校ブロック内での児童・生徒数の状況や学校規模適正化基本方針の内容をご理解いただきたく、この会議を設定させていただいた。ご意見を踏まえて慎重に協議を進めていきたい。</p>
委員	<p>つつじヶ丘小学校から亀岡中学校へ進学している地域は、十年程前に、つつじヶ丘小学校から亀岡中学校へ進学しているねじれを解消しようという動きがあった。そのときに保護者に十分な説明をせずに進めようとして、保護者から相当な反発があり実現しなかったということがあった。そのようなねじれが生じたのは、つつじヶ丘小学校ができたときに、今の上矢田町、中矢田町、下矢田町の君塚、下矢田町大末という地域が無理矢理つつじヶ丘小学校へ行かされたからである。そういう不満が今もずっと地域に残っている。</p>
座長	<p>平成26年度から学校規模適正化に取り組んでいるが、平成20年の前後くらいに一度亀岡地区東部の地域で校区見直しの話があったけれども、見直しまでに至らなかった。そういうことも踏まえていけないということである。</p>
委員	<p>今回の第1回会議で学校規模適正化基本方針の亀岡中学校ブロックの課題はどういうものかを整理しないとイケないし、この基本方針ができて2年が経つので、その間の経過も含めて地元の自治会長に事前の周知が必要である。亀岡地区東部自治会においては、東輝・詳徳中学校ブロックで取組みをさせていただいたので、何らかの下地はある。今日は、そういう経緯を御存知の方と御存知でない方がおられることを認識していただきたい。また「小中一貫」と「小中連携」の言葉は、はっきり分けて使うべきである。亀岡川東学園のような「義務教育学校」が、小中一貫であり、その小中一貫を進めるために「義務教育学校」が平成27年10月に法改正されたということが原則である。事務局の先ほどの説明では、小中一貫を進めるために実施するということであるが、亀岡市内の小中学校を全部小中一貫にするのか。大規模校ではなく、小規模校を中心に小中一貫にするのが当初の方針の内容ではなかったのか。就学校区と学校区域も認識しないとイケない。就学校は教育委員会があなたほどこの学校へ行きなさいと決めるものである。この前の校区の見直しにおいて、一定の理解が得られて平成32年4月からの東輝・詳徳中学校ブロックの小学校や中学校毎の校区を決めた。当然、亀岡東部自治会や中部自治会はそのままであると見せていただいた。学校区域については例えば「つつじヶ丘小学校区域は、〇〇町</p>

	<p>と〇〇町」であると書いてあるが、区域を決めるにあたっては、道路や河川の地理的なもの、歴史的経緯、住民感情等の地域性を重視して実情を踏まえて教育委員会が決めることとなっている。やはり、そこを踏まえた上で、地域はどこまで関わってこの議論をしたらいいのか。あとは教育委員会に任せて判断してもらうのが筋ではないか。東輝・詳徳中学校ブロック協議会で地元の人は、このままでいい人やつつじ小から亀岡小へ戻ったほうがいい人などいろいろな意見があります。それを東輝・詳徳中学校ブロックで勝手に決めて、受け入れる亀岡中学校ブロックで議論しておかないと進められないのではないかとということが亀岡東部自治会の考えである。そういうことも踏まえて、亀岡中学校ブロック協議会で皆様のご協力をいただきたい。ただ、亀岡東部自治会としては、今までの経緯を踏まえながら、地元の人意見も集約しながら終着点に持っていく。それが現状維持なのか、見直しになるのかはもう少し時間がかかると思う。</p>
<p>座長</p>	<p>事務局から説明させていただいたが、委員の皆様の間でご理解いただいた内容に差があるのではないかとということ、亀岡地区東部については、これまでは東輝・詳徳中学校ブロックに加わっていただいていたことから、一定の理解をいただいているけれども、その他の地域とは異なっているとのこと、それから、「小中連携教育」と「小中一貫教育」について、同質ではなく異なるものであるという指摘をいただいた。また、亀岡市として小中一貫教育をどのように進めていくのか、という質問も含めたご指摘をいただいた。通学区区の決定にあたっては、地域性や道路や河川等の物理的なものや過去からの歴史的な意味合いを含めて決定されるものであるという意見をいただいた。</p>
<p>教育長</p>	<p>義務教育学校と小中一貫校について、平成28年度に制度ができて義務教育学校というのは、小学校、中学校という名前ではなく、9年制の新たな学校であり、校長は1名である。1名の校長が管理するそういった体制の学校が義務教育学校である。これには施設分離型というものもある。小学校が2校、中学校が1校の義務教育学校も可能である。そこには、校長は1名配置して、小学校には副校長を配置するようなことが制度としてできる。それから小中一貫教育校も平成28年度にできて、これは小学校と中学校にそれぞれ校長を配置できる。一定の独立した学校であるが、3校で教育課程のカリキュラムを小学校1年生から中学校3年生まで共通のカリキュラムで同じような進度で授業を行い、9年間を一体として育てていこうとする制度である。今までは、単なる小中連携という形で情報交換をしたりしていたが、制度として平成28年度にできたものである。教育委員会がやろうとしているのは、義務教育学校か小中一貫教育校の新しい枠組みができたので、こうした枠組みをうまく活用した教育がつかれないかを目標にしている。全部の学校でやることはすぐにはできないので、まず亀岡川東学園で義務教育学校をスタートできた。今回、詳徳中学校ブロックでは、安詳小学校と詳徳小学校の卒業生は詳徳中学校へ進学するようになって</p>

	<p>たので、この3校で小中一貫教育ができるのではないかとこれから研究して新しいスタイルの学校ができないかと考えており、平成34年を目標にこれから準備に入っていく。制度としてある小中一貫と制度ではないが小中が連携してやっていく小中一貫があり、私は制度としてある小中一貫にしていきたいと思っている。全部ではなく、できるところからやしていきたい。小中一貫教育校という形でも良く、必ずしも義務教育学校でなくてもいい。ただし、両方とも9年間の同じカリキュラムを作って、3校が一つの学校として組織していきたい。特別の教科の例えば亀岡学をやろうとか、小学校1年生からの英語をやろうとか、学習指導要領を超えた新しい学習にチャレンジしようと思ったら、そういうことができる学校を国が認めている。ICTを活用したカリキュラムもできるし、学校の想いや地域の想いを踏まえた普通の学校でできない市の取組に繋がっていかなければならない。</p>
委員	<p>今の話は、東輝・詳徳中学校ブロック協議会の中では出ていなかった。そこから始めると議論は進まない。</p>
委員	<p>校区割りであるが、学校へ通うのは子どもである。子どもがどこの学校へ通うかを選べる権利はないが、こういったタイミングで子どもの意見を聞いてもらえることはできるのか。保津小学校の話があったが、特認校にしても学校がしっかりしないと児童は来ない。このメンバーも1年後には変わってしまうので、この会議が2年、3年かかると意見がバラバラになる。子どもの意見は大事である。地域の意見を聞こうと思うなら、子どもの意見は大切である。</p>
座長	<p>校区の決定にあたっては子どもの意見を取り入れるべきであるという意見であった。この場で決定するのではなく、今日の会議では基本方針の内容であったり、学校の状況をご理解いただけるように持たせていただいた。本日いただいている意見も含めて、次回以降の会議でご説明し、ご協議させていただければと思う。</p>
委員	<p>ここまでの会議の話聞いていて、噂は聞いていたが、市からは一度も説明を受けていない。保津小学校の合併等の具体的な検討もしていない。もっとPTAで検討する時間を欲しい。保護者としてアンケートを答えたことはあったが、これくらいの学級規模、学級数ならいいなという思いで書いたが、それがそのまま統廃合を希望して書いたわけではない。おそらく他の保護者も同じではないか。複式学級の解消を基本方針に挙げているが、保津小のPTAから複式学級の解消の希望を出したとは聞いていない。むしろ存続してほしいという思いを持っている。実際に複式学級になるときは不安があったが、保護者から不満は聞いたことがない。保護者で検討する期間を与えて欲しい。</p>
座長	<p>これまで説明がなく、今日初めて聞いたことで、PTAとして検討、協議する時</p>

	間を取って欲しいとのこと、過去のアンケートの結果についてと適正化基本方針の課題や方向性について、どこから導き出されたのかを説明してほしいという意見。
委員	今日の会議の趣旨をみんなわかっていない。亀岡地区東部の東輝中学校へ入れるかどうかと保津小学校の特認校化の二つがポイントだと思うが全然伝わっていない。進め方として亀岡地区東部地域の学校区の件であれば、それに絞って徹底的に説明し、徹底的に意見を聞く。駅北のことは、まだ何人くらい住むのか分からないし、ここが追分町なのか余部町なのか新しい町になるのかまだ決まっていない。それなら今議論していてもだめなので、説明に徹してもらえたらいい。今日意見がいっぱい出ているので、もう一度問題を整理して出してもらえたらいいのではないかな。
座長	この会議の趣旨が十分に説明されていない。議題を絞って協議をしていくべきであるというご指摘をいただいた。
委員	亀岡小学校からつつじヶ丘小学校へ校区変更された時の経過について、何年ごろに校区変更して、どういう反応であったか。自治会と子ども会の対応が変わったと聞いているので、校区変更を教育委員会が編成して、その結果どうなったのかという教育委員会としての総括がされていないし、子どものひとりひとりを考えていないように思う。それから、教育委員会が悩ましいところだと思うが、都市計画やまちづくりが先行して、そのあげく教育委員会が何とかするというのは、まちづくりとしてはおかしいのではないかな。少なくとも協議ができるような仕組みづくりをすべきである。
座長	過去の経過について、一定総括を行い、整理し説明をした上で、協議に入っていくべきである。都市計画が先行し、それに次いで学校区の見直しをしていく仕組みについて疑問を呈していただいた。
教育長	駅北の開発エリアについて、どこの自治会なるか、町名をどうするのか、自治会の線引きがどこになるのかで校区が大きく変わってくる。追分町になれば亀岡小になり、余部町であれば城西小になる。住所地とリンクして学校区を決定しているが、住所が決まると自治会が決まり校区も決まる。一度決まると後から校区を変更するのは難しくなる。そういうこともシミュレーションすることで、教育委員会は直接関わることがないが、自治会長の皆様も知っておいていただいて、これからの線引きの議論で参考にいただければうれしい。だいたいどれくらいの人数になるのかは、これまでの他の地域での宅地開発を参考にシミュレーションしたい。次回までに出せるようにしたい。
委員	ディベロッパーはどこの校区になるのかをパンフレットに掲載していくことに

	<p>なる。それまでに決めないといけないので、逆算しながら、関係するところで協議する手立てを教育委員会が声を出して取り組んでもらいたい。</p>
座長	<p>開発の進捗状況も把握しながら協議を進めていかないといけないとの指示である。次回の会議日程等について、事務局からお願いしたい。</p>
事務局	<p>今回の会議については、準備が十分にできておらず、また趣旨等の説明についても事前にお伝えできず申し訳ない。資料についても現状で分かっている部分が少なくこのような資料となった。そのあたりも整えていく必要がある。駅北の状況については、もう少し明らかになってこないと児童・生徒数の見込みを立てにくい。資料作成の状況もあるので、次回については、当初8月下旬頃を予定していたが、再度調整させていただきたい。</p>
委員	<p>駅北の話であるが、教育長は住所地によって異なると言われたが、学区を指定する規則を見てみると、例えば、「〇〇町(ただし、何丁目から何丁目を除く)」としているのだから、正しくない。住所よりも駅北の場合は、北側は保津川、南側はほぼ JR で挟まれている。保津小学校へ行く場合は、保津橋を渡っていかないと行かない。また城西小学校へ行く場合は、アンダーパスを抜けていかなければならない。亀岡小学校へ行く場合は、アンダーパスを通るか、保津橋に一旦上がって春日坂へ降りるか、亀岡駅の構内を通るしかない。そのため、単純に住所地だけで分けるのは難しいだろう。亀岡中学校ブロック協議会では、大切なことであるが駅北の開発を持ち込むと話が混乱するのではないかと。亀岡中学校の規模、城西小学校がどうなるのかと心配することが出てきて、校区の問題と違うところで疑念が出てきて、整理がしにくくなるのではないかと。その辺りも含めて教育委員会として、駅北のことをどう扱っていくかを整理していただきたい。それからもう1点、つつじヶ丘小学校から亀岡中学校へ通うことの経緯を知っているものが少ないと思うので、話をさせていただきたい。私が亀岡中学校へ入ったときに校区の変更があった。その時は地域が大変混乱した。つつじヶ丘小学校の規模を適正化するために私たちは亀岡小学校からつつじヶ丘小学校へ行かされ、国道9号線を渡って亀岡小学校へ通うのは大変危ないからつつじヶ丘小学校へ行きなさいという説明であった。ところが、アヤハディオの向かいのあさひが丘の自治会があるところは、国道を渡って、亀岡小学校へ通っている。しかも、その当時は、矢田口(現在の古世口)から市役所まで全く信号がなかった。そういう状況の中で国道を渡るのは大変危ないというのは分かるが、矛盾する部分があった。そういうことがあって、地元では未だにいろんな意見が交錯している。今回、東輝・詳徳中学校ブロック協議会に入らせていただいて、もしかしたら、亀岡小学校から亀岡中学校ではなく、つつじヶ丘小学校から東輝中学校へ行かないとならないという話になったので、それぞれの自治会で協議したり、子ども会の会議にも入らせていただいて出た答えが、地域としては、保護者としては、今のままでいいのではないかと。つつじヶ</p>

<p>委員</p>	<p>丘小学校から亀岡中学校へ行かせてほしいという結論だったので、それを亀岡地区東部自治会として意見を出していただいた。</p> <p>昭和30年に亀岡市が1町16ヶ村で合併してできた経緯、経過があって、昔から亀岡町であった。東部・中部・西部ではなく、昔から亀岡町である。20年ほど前にコミュニティ条例ができた際、30万円の補助金を出すからそれぞれでコミュニティを作れということから、東部・中部・西部というブロックに分かれてコミュニティを作った経緯から今日に至って、東部自治会・中部自治会・西部自治会と言っているだけで、亀岡地区は一つである。亀岡地区の子は亀岡中学校で、城西小学校ができたのが今から数十年前にできて、亀岡小学校から移ったがあまり問題にはならなかった。なぜなら、亀岡小学校がいっぱいだったため、ふたつに割って城西小学校ができたから。しかし、安町という地域は、城西小学校へいく子と亀岡小学校へ行く子がいる。今は問題ないが、子ども会の集まり等で分断されてしまう。亀岡小学校から亀岡中学校、亀岡地区の子どもは亀岡中学校というのが昔からの経緯である。だから、亀岡地区はひとつであるということをお頭においていただきたい。つつじヶ丘小学校から亀岡中学校へ進学して勉強することが当たり前ぐらいにみんな思っている。東部も中部も西部も亀岡地区である。そこに保津小学校から亀岡中学校へ進学するのは、昔からのことなので、わだかまりはない。</p>
<p>座長</p>	<p>駅北地区の取り扱いについては、慎重を要するという。つつじヶ丘小学校ができた当時の経過について、詳しくご説明いただき、そして、つつじヶ丘小学校ができた以降の校区の設定に矛盾があるのではないかと指摘もいただいた。次に、亀岡市のできた経過もしっかり踏まえなければならない、特に旧亀岡町については、今は東部・中部・西部に分かれているが、亀岡地区はひとつであり大切にしなければならない。それらも踏まえて考えていかないといけないという意見をいただいた。これまでも、児童数の見込みも示して考えていくべきであるという意見や特認校について、小中一貫教育と小中連携教育の異なる点や正確にご理解いただくための資料等も準備ができていなかったこと、しっかりとポイントを絞って協議をさせていただくことも踏まえて、教育委員会で資料や経過等も含めてしっかり検討した上で、改めて会議を持ちたいと考えている。</p> <p>今日のところは、会議を閉じさせていただく。</p>